	<p>2 各団体間の連携について</p> <p>3 その他</p> <p>□ 閉 会</p>
<p>要旨</p>	<p>山辺健康こども部長による開会に続き、本会議の会長である蕨佐倉市長から挨拶があり、委員に委嘱・任命された委員に対して、蕨会長から委嘱状が渡された。（机上配布）</p> <p>続いて、新たな委員もいることから委員の紹介が行われた。</p> <p>次に、会議の公開等について検討し、結果、個人情報扱を扱わない限り、傍聴要領に則り原則公開とし、会議録の作成は、要録で作成することとなった。</p> <p>その後、山辺部長から会議の目的や役割、本日の会議のねらいについて説明があり、会長である蕨市長の議事のもと、会議が進行され、概ね次のようなやりとりがあった。</p> <p>○立田委員から、子育て支援の取組みについて概ね次のような報告があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園の入園状況については、少子化の傾向にあります。核家族化や女性の社会進出の機会が増大し保育に対するニーズは高まっています。 ・その対応として、民間の保育園の誘致などを行い、結果、受け入れ児童数が増えたことよって、昨年と同時期での比較になりますが、待機児童の数は若干減っています。 ・今年度、志津地区と佐倉地区に2園の保育園が新設されることで、数字的には待機児童がいなくなることとなりますが、新たな園が開設されると潜在的なニーズが浮かび上がり、待機児童が増えてしまうという傾向があります。 ・平成27年4月から子ども子育て新制度が導入されることに伴い、教育委員会で行っている幼稚園の業務が子育て支援課に移管されることとなるので、資料には、参考ということで、幼稚園の入園者数を掲載させていただいていますが、幼稚園の園児数は減少傾向にあります。 ・グループ型小規模保育事業については、この4月から始まった事業で即効性のある待機児童対策として実施しています。 ・子育て支援事業については、レイクピアウスイにある子育て支援センターで、育児不安や孤立感の解消を図るための支援の場として活動しています。 ・ファミリーサポートセンターについては、援助を受けたい人、行いたい人が会員となり、地域において子育てを助け合う事業となります。平成22年度から開始しており、地域の中での相互援助活動として、会員になる方の思いで支えられた事業となっています。民間の保育サービスのように十分な対価を支払って、子どもを預かるのではなく、ご自分の自宅等で少しの間お子さんを見てくださるという、昔からあったご近所さんの助け合いをセンターが間に入って作っていくというものです。 ・病後児保育については、子どもの病気の回復期に、保護者の就労等の都合により家庭での保育や集団生活が困難な場合、専用の施設において一時的に児童をお預かりするもので、現在、3施設に佐倉市が委託して行っているところです。子育ての責任の一義的な責任は家庭にあるということではありますが、社会の仕組みが複雑になり、核家族化が進む中、親にとって子どもについての様々な課題を解決するには、個別の取組みだけでなく、家庭や地域、学校、関係機関が連携を図り重層的に子どもや親を支援する体制作り、相談体制の充実に取組む必要があると考えています。

- ・保育園での地域子育て支援拠点事業については、各保育園が園庭開放などにより入園している子どもたちの保育の実施のみならず、地域における子育て支援としての拠点も担っており、子育て中の家庭、これから親になる方に対して、地域における身近な拠点施設として相談などをお受けするなどし、地域の子育て機能を補完する役割を担っています。
- ・その他、児童青少年課と連携して、各園にてCSP、いわゆる怒鳴らない子育ての手法を取り入れた暴力でなく言葉による望ましい躰の方法を職員に教示しており、子どもの成長における良好な親子関係を築くための取組み等を、今後、保護者などに対しても行っていく予定です。
- ・また、障害児、いわゆる支援を要するお子様が非常に多いという状況もあり、早いうちの発見がその後の発育において非常に大切であるという部分があることから、各園も子育て支援課にいる保育士、言語聴覚士などと巡回して、教育センターとも連携を取りながら関係機関などにつなげています。
- ・最後に、放課後児童健全育成事業について、今年度、平成26年4月1日から児童センター、公立の学童保育所では指定管理者制度を導入し運営を行っています。児童センターは、子育て支援事業や児童健全育成事業を行っていますが、遊びを通して子どもたちの健やかな成長を図ることを目的とした施設で、地域のつながりが希薄化し、子育て支援拠点施設として児童センターが担う役割は年々大きくなっています。社会情勢や利用者ニーズにあった事業等を積極的に提供して、地域の子育て支援の拠点として、更なる施設の有効活用を図っていきたいと考えています。また、学童保育所については、保護者が仕事などのために、昼間家庭にいない児童を対象に、放課後、適切な遊びや生活の場を提供しているものです。今後は、安心してお子様を預けられる場として、全学年の6年生までの受け入れ、過密学童の整備をする方針で計画を進めているところです。
- ・臼井地区には、学校の中に学童保育所がないところが、間野台小学校を含め3校ほどありますが、これについては、まずは、空き教室の状況など教育委員会に確認させていただき、引き続き関係機関と協議して、できれば早いうちに対応したいと考えています。
- ・子育て支援課としても、幼児期の子どもたちが、はじめに社会とかかわりを持つ非常に大事な時期の成長を援助するために、以上のようないろいろな取組みを行っているところです。子育ての役割を家庭の役割として、親の責任のみが強調されたり、社会の責任として、子育て支援事業にお任せになったりするのではなく、子育ては、家庭と社会がともに責任を持って取り組んでいくことが望ましいと考えています。

○前田委員から、小学校の状況について概ね次のような報告があった。

- ・王子台小学校では、子どもたちの生活上の様々な問題を改善するために活動しています。
- ・主なものとして、校内では、月に1回、生徒指導推進委員会を各学年の代表者を集めて、いろいろな子どもたちの問題を協議しています。また、年間3回ほど教育相談週間を設定して、1人1人、面談を行うことによって、子どもたちの悩みや不安を解消し

ていく取組みをしています。

- ・また、校外では、中学校区、臼井西中学校と臼井南中学校の小中連携推進委員会議に参加して、小中でのいろいろな問題について話し合う事業を行っています。
- ・子どもたちのことで気になることについては、先週の新聞で、内閣府の調査があり、子どもたちが直接、相手に言えないこととか言いにくいことでも、メールならば相手に言えると回答した小学生が、7・8年前に比べて倍に上っているとのことで、コミュニケーション能力の低下について感じていることがあります。

○山口委員から、中学校の状況について概ね次のような報告があった。

- ・昨年申し上げたことと、大きく変わりはありませんが、いじめ対策基本方針というのが出ましたので、そのことについて、生徒並びに保護者に周知徹底を図っています。
- ・前田委員から子どものコミュニケーションについて話がありましたが、スマホとか、ケータイを使いたいじめというものが見られ、その件について、全校集会の中とか、保護者会の中とかで、話をしているが、なかなかなくなるといった状況にはなく、非常に困っているところです。
- ・毎月の全校集会の中では、こういう問題を含めながら子どもたちに対する地域からの声、保護者からの声を含め、よくなった点、改善して行かなくてはならないことを話し、また、生徒指導主事の方からも、子どもたちに徹底を図っています。
- ・毎学期、いじめ調査もやりながら、教育相談として子どもたちと話をする時間を、とにかく時間をとってやろうよということで継続しています。ただ、中学校の場合は、学校不適應の子もいるので、勉強だけの問題ではなくて、家庭に問題があったりと、いろんな要素を含みながら、長欠傾向の子どもたちがいます。その取組みも民生委員さんとも連携を図りながらやっている状況です。

○古嶋委員から、児童・生徒の全般的な状況について概ね次のような報告があった。

- ・特にいじめ問題、不登校児童生徒数の推移と対応という2点について話をさせていただきます。
- ・まず、いじめ問題とその対応について、教育委員会としては、いじめは、いじめを受けた児童生徒の健全な成長と人格の形成に重大な影響を及ぼすと共に、生命や身体にまで危険を生じさせる可能性を持った大変重要な問題であると捉えています。
- ・そのため、先ほど山口委員からも話があったとおり、いじめ防止対策推進法が制定されたのと同時に、昨年度中に、全小中学校で、いじめ防止対策基本方針というものをすべて立てていただきました。
- ・その内容というのは、特にいじめを起こさせないための未然防止策、早期対応策、重大事態への対処の3つの視点に沿って、立てていただき、そして学校・保護者・地域が協力して、いじめのない学校づくりに取り組んでいただく方針です。それ以外の具体的な取組みについて、資料には3点挙げさせていただきました。
- ・いじめの月例調査について、これは、毎月、調査を行っていただいています。昨年度中のいじめの認知件数は、小中合わせて169件となっています。数としては、一昨年度より増えているが、たくさん見つけて、早めに解消、そしていじめゼロの学校を目

指すという方針でやっていく中で、このようなことを繰り返し行っていくことで、いじめがどんどんなくなっていくことを目指しています。

- ・それから2点目として、教育相談週間の設置といじめアンケートの実施です。特に緊急性のあるものについては、常に教育委員会指導主事が学校訪問を行って、実態の把握、対応について、指導支援を行っています。
- ・3つ目、これは今年度初めてですが、佐倉市いじめ防止サミットの開催を8月25日に予定しています。各学校、小中学校の代表を集めまして、いじめについて、どう思うかということ問いかけながら、子どもの自治意識、自分たちの問題であるというような自治意識を高めるためにも非常に有効であろうと考えています。
- ・次に、大きな2つ目、不登校の推移と対応について、不登校とは、年間30日以上、休んだお子さんを指します。不登校の状況について、小中合わせて昨年度は、112名でした。不登校の原因は、例えば、非行の問題であるとか、子どもの無気力であるとか、様々な問題が含まれているので、学校のみならず、佐倉市の教育センターの教育相談の事業であったりとか、電話相談、面接相談等で、あらゆる方向から、子ども、保護者への支援を行っています。
- ・やはり子どもたちについては、学校での体験活動、様々な地域での体験活動というのが、非常に子ども達ひとりひとりの自己肯定感を育てています。それが学校への登校へ向かわせるものと信じているので、様々な団体に協力いただき、1人でも不登校の子どもが少なくなるように、今後とも、努力してまいりたいと考えます。

○山科委員から、高校の状況について概ね次のような報告があった。

- ・高等学校の場合は、出身の生徒が、地域の中学校をはじめ広い地域から来ています。本校の場合、佐倉市内が約半分で、そのほかの生徒は、やはり成田、四街道、周辺の市町村から来ています。そういうこともあり、印旛郡市の生徒指導主事が集まり、印旛地区生徒指導連絡協議会というものを開催し、今年も月1回開催して、情報交換、対応等を行っています。
- ・緊急の場合には、当然そのほかにもあるわけですが、連携を図ってやっています。また、深刻な場合には、地元警察、中学校とも情報をやり取りしていく、あるいは連携していくというような形で取り組んでいます。
- ・今年も新年度が始まって3か月、4か月が過ぎているが、高校生の自転車の二人乗り、あるいはスピードの出しすぎ、車と接触したり、あるいは、歩行者と接触したりということも、何件か見られるので、特に教職員による学校周辺、駅周辺の定期的な見回りなども続けて、自転車事故等が起きないように、今年も対応して行きたいと考えています。

○佐倉東高校定時制 小林教頭から、定時制高校の状況について概ね次のような報告があった。

- ・同じ高等学校ということで、印旛地区の生徒指導連絡協議会に本校も毎月連絡協議会に参加しています。
- ・今日は主に定時制の生徒について話をさせていただくが、定時制・通信制は県内に18

校あり、佐倉東高校については、近隣の市町村からの生徒さんが大多数となっています。先ほど、不登校の話が出ましたが、本校の定時制に在籍している生徒が112名いますが、半数近くが中学校時代までに、不登校の定義は年間30日以上とありますが、中学校からいただいた調査書、いわゆる内申書で統計を取ると、半分近くが、不登校経験者です。本校は、全日制にも、不登校であった生徒が入学しています。幸いなことに、何人かは登校し始めています。昨年まで30年間千葉市内の高校に勤務していましたが、千葉市内でも、不登校の生徒さんが、元の仲間達がない所を選んで、わざと遠くのところを選んで、入学していました。去年まで、ずっと全日制に勤務しておりましたが、なかなか全日制ですと周りの子どもたちが元気いっぱいですので、中学校と変わって、急に登校し始めるという経験が私自身なかったのですが、佐倉東高校の生徒、定時制の生徒については、何人かは、毎日、定時制は4年間なのですが、今の4年生も、4年前不登校で入学してきたのですが、一日も休まずに今、来ている子もいます。

- ・落ち着いた授業環境を目指しているということで、今現在、家庭的な事情が様々で、精神的にも不安定な生徒さんも多いのですが、3年生、4年生まで、中途退学せずに頑張っている者については、かなり落ち着いた高校生活を送っているものと見ています。
- ・今の1年生については、残念ながらこの3か月間、そのまま不登校を続けている者もおりますし、少しずつ登校しておりますし、先日の期末テストも、無事に受けて終わったという生徒もいます。
- ・学校としては、学び直し、再チャレンジとしての役割を果たしていかななくてはならない時代なのかと考えています。
- ・それから、働きながら通っている生徒が112名中、60名、50%を超えていますが、不景気であるので、ほとんどがアルバイトです。今後の学校としての課題は、高校卒業後の正社員としての、就職活動が課題となっています。特に不登校生徒については、高校入学後も、欠席日数が多い。このような時勢であるので、就職に際しても、進学に対しても、欠席が多いというのは、かなりのハンディキャップとなってしまいます。進学先の大学、専門学校、あるいは、就職先の方々には、その辺のところも、理解いただけるよう努力してまいりたいと考えています。

○新田委員から、千葉敬愛短期大学の取組みについて、概ね次のような報告があった。

- ・本学では、地域の短大ということで、佐倉市内の学校、地域の皆さんと協力・連携、または、本学の人的資源を活用して支援をさせていただきたいということで活動をさせていただいています。別添の資料「総合子ども学研究所ニュースレター」の第2号の方に、特に本学の教員又は学生が地域で活動している様子について掲載しているので、こちらの方をご覧いただきながら、話をさせていただきます。
- ・本学の学生は、千葉県内また茨城県より進学しているが、佐倉市での活動、特にボランティア活動などでできるかぎり多くの学生に参加するように呼びかけています。
- ・全学的な活動もしていますが、特に本学はで2009年に総合子ども学研究所を立ち上げ、この研究所を通して、地域の協力または連携支援等を実施しています。その中で、

学生が日頃、地域の子どもたちと係って活動しているものとしては、最終面に記載があるが、佐倉市での通学合宿でのボランティア、5月に1度、9月、10月にそれぞれあり活動させていただいています。学生たちも非常に意欲的に参加しており、地域の小学生とふれあう機会をいただいています。更に、資料の下の方にあるとおり、今年の2月に志津地区青少年育成住民会議に参加させていただきました。随時、ボランティアの話がありましたら、学生の方の支援を行い、地域での活動をしています。また、幼稚園・保育所、各小学校等の学習ボランティア等があれば、その都度、学生たちが活動している状況です。

- また、本学の教員の地域での協力支援ということで、昨年よりコミュニティカレッジ佐倉が開設されたことに伴い、こちらの中で特に本学の教員、教育、保育の教員養成を行っているので、人間学の方の講座を担当しています。その活動については見開きの方の2ページ目のところにあります。間接的ですが、本学の場合は、地域で貢献されている地域の皆様の後方支援という形で、かかわりをさせていただいています。
- 更に、地域の皆様や教育者、保育者の皆様に、公開講座という形で、年2回、教育や保育の研究や現場で活躍している講師をお呼びして開催しています。こちらについては、1ページのところに、昨年度のことを掲載しております。今年度については、5月に一度開催していますが、12月2日にまた保育の研究者をお呼びして、広く皆さんに受講していただけたらと考えております。
- 更に7月ですが、子ども向け公開講座ということで、こちらは、佐倉市より後援をいただき、地域の小学生向けの公開講座を行っていただき、学習の手助けということをさせていただいています。
- こうした活動が中心になりまして、本学の学生、教職員が地域での教育や保育に係る支援ができたかと活動しています。
- 最後になりますが、資料にはありませんが、昨年の10月に、蕨市長をはじめ、佐倉市からお力添えをいただき、社会福祉法人敬愛を立ち上げまして、さくら敬愛保育園を開設しました。定員80名のところ、開設すぐで50数名の入園があり、思った以上に入園者が多く、少子化と言われながらも、保育に関しては、ニーズがあるのだと痛感しました。このような形でも、本学の資源を地域の皆さんに活用していただければと思うので、こうした活動を引き続き、行っていきたいと考えています。

○飯塚委員から、PTAの取組みや保護者の様子などについて、概ね次のような報告があった。

- 資料11ページの平成26年度事業・活動計画書は、前年度とさほど変更がないので、従来の活動を今年度も行います。
- 5月に定期総会・表彰祝賀会を開催しました。佐倉市PTA連絡協議会は、佐倉地区、臼井地区、志津地区、南部地区という4部におおまかに分かれていて、何かをする時は、その地区ごとで、代表を決めたりとか、話し合いをするなどし、その地区ごとで、PTA会長会を行っています。今まで臼井地区はなかったそうだが、今年度初めて行う運びになり、近隣の王子台小や臼井小、千代田小などの各会長さんたちと話をし、

臼井地区で、連携を深めて行くこととなりました。

- ・会長になって日が浅いので、保護者の方の現状の様子というのを、大きな目で見ることではできませんが、先日、市P連のバレーボール大会があり、今年度、きっと初めてなのではないかと思いますが、参加できない学校が生まれました。それというのは、お母さん方保護者の方の意識が、PTAとかに向いていないのが、少しずつ表れているのではないかと感じています。役員を決めるのも、かなり苦勞しており、学校によってはポイント制を導入したりしており、そういう意味では、学校に向けて皆で学校を見守って行こう、子どもたちを見守って行こうという姿勢が少しずつ薄れてきているのではないかと感じる面もあります。
- ・間野台小の方では、幸いお母さん方が一生懸命頑張っておられ、各活動も積極的にやってくださっています。それがこれからも続くように事務局の方としましては、負担を大きくせず、でも楽しくやっへ行こうという雰囲気を出して、お母さんたちがもう少し気軽に楽しくPTA活動に参加できるように努力して行っています。

○ 郵井統括職業指導官から、学校を卒業した若者の就職状況について、概ね次のような報告があった。

- ・資料 12 ページから 17 ページということで、現状として、現在、来年の3月卒業生向けの求人の受理ということで、4月からハローワークの方で、中学、高校ということで進めています。
- ・今年春の卒業生、いわゆる昨年の状況としては 13 ページの資料ということで、求人の数、就職者の数ということで掲載をしています。高校生にあつては、3月末の段階で、98%の内定率ということになっています。今年、4月から求人の受理を進めているところですが、求人の受理の状況については、昨年の同じ時期、先週の水曜日の状況で80%、8割ほど、求人の数が増えているというような状況になっています。
- ・求人の受理を始める前に、会社を集めての求人説明会を実施し、参加いただいた企業も、昨年の85社から115社ということで、30社ほど増えているような状況です。そのような求人の受理の説明の中でアンケートを実施しており、会社から、採用いただいた生徒に対するアンケートなどをいただいています。そういった中で、多くいただいているのが、コミュニケーション能力といったところが大分不足している、上司の方との会話がなかなかできないとか、または、ちょっと元気がないのではないかとといったご意見をいただいているところです。先ほど、委員の方から、コミュニケーション能力に関する問題というのも少し上がっているようですので、そういったところが、少しずつ問題となっているのかなと感じています。
- ・そういった中で、会社の中で孤立などしないように早期の離職にならないように、今年度からハローワークは定着支援ということで、進めていくこととなっています。ハローワークの方には、ジョブサポーターという専門の担当者があり、企業を回って何か就労継続に当たって、会社からの問題点、または、本人からのご相談があれば、ハローワークの窓口、または、その会社に出向いて行って、相談を行うというところを今後進めていきたいと考えます。また、各管内の高校等については、そのジョブサポーターという専門担当が、学校に出向いて、校内ハローワーク、職業相談といったも

のを実施させていただいているといった状況です。

○児童青少年課 飯野副主幹から、児童虐待の状況について、概ね次のような報告があった。

- ・平成 25 年度の家庭児童相談の総数が 547 件、うち虐待ケースは 319 件で、ケース数では 58.3%が児童虐待のケースでした。その内、25 年度の新規に相談を受けた児童虐待のケース 192 件について、虐待の傾向について、報告いたします。
- ・2 の 1 の部分、児童虐待行為の件数ですが、一番多いのが、心理的虐待で、45.8%になります。これはDVの相談が増加したこと。また、親のメンタル、親自身が被虐待児であったという経験から、心無い言葉を子どもに浴びせてしまうというような相談が増えています。2 番目にネグレクト、27.6%です。これもやはり親自身が子どもの時に、きちんとした養育を受けていないために子どもに十分な養育ができないというケースが多くなっています。3 番目に身体的虐待として 25.5%、これは親自身がストレスを感じ、そのストレスを弱い子どもに浴びせてしまうという傾向があるようです。4 番目に性的虐待、1.1%ですが、これについては、なかなか表面に出てこない問題なので、実際には、潜在的には、もう少しあるのではないかとというように全国的にも言われています。
- ・2 番目に、被虐待児の年齢別件数です。乳幼児の虐待を受けたケースが 51%、全体の半分が、乳幼児期、就学前のお子様の虐待を受けた年齢です。そして小学生までで言いますと、82.3%、小学生までのお子様の虐待を受けたという方の相談がほとんどを占めています。
- ・虐待者の件数ですが、実母、実父が約半数程度ありまして、ほとんどが実母、実父からの虐待になっています。
- ・通告について 4 ですが、家族や親族からの相談が 24.5%で一番多くなっています。次に児童相談所からの相談ということで、児童相談所に相談された場合、その内容について、市に照会を掛けるというものが、20.8%で、これも児童相談所の方からも実際、ご家族、近隣住民からの通告というものが多くなっているというものが現状です。
- ・全体に相談の傾向ですが、内容が多様になっています。貧困の連鎖とか虐待の連鎖と言われる状態で、親自身が問題を抱えているというものが多くあります。また、近年、外国籍の方の相談が多くなっています。この様々な問題に対しまして、児童虐待防止ネットワークの皆様のご協力をいただきながら対応しているという現状です。

○佐倉警察署 松山生活安全課長から、少年犯罪の状況について、概ね次のような報告があった。

- ・資料の平成 26 年の犯罪発生状況と少年非行・児童虐待の概況についてということで、配布資料がございますが、児童虐待については、今、お話があったとおりです。したがって、1、2、3 とありますが、3 については省かせていただきます。一つだけ言えば、児童虐待、先ほどの中の性的虐待ですが、虐待の中で一番罪が重いということで、実際の話で、自分の実の子どもの体を弄んだという事件が、私が過去に勤務していたところで 1 件ありました。この性的虐待は懲役 10 年の、300 万円の罰金になって

います。めったにないのですが、県内でも 10 件あるかないかといったところです。児童虐待については、私自身、関心を持っているところです。

- 1 の平成 26 年上半期の刑法犯認知件数の状況であります、左側の項目ですが、全刑法犯から下に行きまして、主な手口、ひたくりからはじまりまして、特殊詐欺。その右の方、千葉県内と佐倉署管内の 2 つに分けてあります。
- まず、全刑法犯ですが、件数 32,805 の増減率で -14.5% で、上半期だけなのですが、これだけ減っているという状況です。ざっと見て、千葉県内であれば、時間の関係でちょっと省きますけども、プラスに転じているのは、一番下の特殊詐欺、+29.5%、特殊詐欺というのは、県内の重点目標、いわゆる振り込め詐欺ですね。振り込め詐欺というのいろいろありまして、普段使うおれおれ詐欺、おれおれはたいていほとんど 8 割方占めています。その他に、架空取引詐欺、融資保証金詐欺、還付金詐欺というのがあります。これらを総称して振り込め詐欺と言っています。類似詐欺というものがあるのですが、金商法というのがあって、金が上がるよとか、ギャンブル必勝法とかいうのが、特殊詐欺の類似詐欺というものです。
- ざっと説明しましたが、佐倉署管内はどうなのかというと、マイナスなのはよいのですが、プラスに転じているのは、自動車盗 +1、これは昨日も発生しているのですが、やられているのは、ハイエースとかトラックになります。なぜ佐倉市は多いのかというと、ヤード対策というのをやっているのですが、鉄板の塀の中に自動車を運んで、解体して、外国、ドバイ空港などに送ったりして、佐倉署、近隣が狙われております。かなり力を入れてやっているのですが、ヤードの方も、たぶん千葉県で一番多いのですが、そこの立入をどんどんやれと担当の課長あたりが毎日発破を掛けられています。そうやらなければ、ほとんど減らないということで、どんどんやっています。自動車対策。県では減っています。あとは外国人グループによる柏を拠点にしていた窃盗団グループを壊滅したことで、県では減っております。ただ、佐倉署は、これ見ますと、+1 で、形としては、プラスがあっちはいけないということで、対応して行こうと思っています。次に多いのが、万引き、+23 件、これはだいたい少年が多いのですが、万引きはゲートウェイ犯罪と言いまして、小さなころから摘み取らないと、これがだんだん大きくなってきます。もう少し、万引きの方も地域課に行つて、指示しているのですけど、万引き防止をどうにかしようということでやっています。23 という数字で多いかなと思っておりますが、地域課の方も一生懸命やっています、スーパーとかへ顔を出せと、一日 1 回は顔を出せということで、私の方からも言っております。あと特殊詐欺が +7、頭を痛めているところですが、銀行の方へですね、最後の砦としている銀行ですね、あと、自治会とか行ったら、振り込め詐欺の話とかは必ずします。うちの課員にも話をします。これもアポイント電話というのですが、朝っぱらから片っ端からどんどんどんどん電話をかけてですね、例えば、志津地区で多いとなると、佐倉が危ないぞということで、ネットワークを通じて、無線の方を流していただく。あとコールセンターというのがありますが、佐倉が狙われているということで、私来てから 2 か月間発生ゼロだったのですが、いろいろな対策、見せる警戒ということで、地域問わず制服になって青パトなど、それらを見せてやっていますが、管内で減っているのですが、それからちょっとある理由があつてやめた

のです。やめた途端、またバタバタバタと振り込め詐欺の電話が入って、何とかしないと頭を悩ませているところです。ざっと資料を見てのとおりでございます。

- ・次に2の方の、上半期の少年非行の概況でございます。非行少年は、千葉県1,076件、増減数312のマイナス、増減率-28.7%です。
- ・佐倉管内はどうかというと、検挙人数は44名、増減率-18.5%となっております。ここにいらっしゃるのが佐倉市の方なので、管内の佐倉市、酒々井町、八街市を比較して資料を作りました。人数的には44名なのですが、下の方の資料を見ますと、33件となっております。少ないのではないかと思いますけども、これは少し難しいのです。これは発生地の件数です。なぜかと言うと、佐倉市に住んでいる少年が銚子の方で、自動車盗をした場合、載せていません。このような事情で少ないのです。これを手作業でやって、集計した発生件数でございます。33件です。残念ながら、平成25年度と平成26年度では、佐倉市に限って、+10件、8件から18件と伸びています。あと、酒々井、八街はマイナスなのですがそのへんのところを何とかしたいと考えています。
- ・あと少年の主な逮捕事件ですが、まず少年事件というのは、任意捜査が原則になるので、なるべく私も身柄を逮捕はしたくないのですが、逮捕したのはこれだけあります。無職少年による窃盗事件、これは何かと言うと、今年の1月15日、ベシア佐倉店で、17歳の少女なのですが、家庭環境も悪い、学校にも行かないということで、無職の少女が常習の万引き癖がついていて、何十点も化粧品を取って、これはもうしょうがないということで逮捕しました。
- ・次は無職少年による事件です。高校生による傷害事件ですけども、3月4日に志津中で、通信制の高校に通う18歳の男性なのですが、校庭の方からテニスボールが飛んできて、自分の頭に当たったということで、校庭で大暴れをしたという事件。私が来る前の事件で、傷害により逮捕しています。
- ・現在、上半期を過ぎまして、少年の逮捕事件は、この2件と聞いています。あと残りは、八街なので省略させていただきます。
- ・事前意見の中で脱法ハーブの関係で少し話が合ったのですが、一昨日の産経新聞で、脱法ドラッグによって都内で4人死傷ということで、かなり問題になっています。先般、池袋の方で、脱法ハーブを吸った人間が、歩道へ突っ込んで、3人ぐらい負傷者が出たという事件もありましたが、脱法ハーブについては、全国的に問題となっています。私、金曜日に泊まりがあつて、土曜日の朝型、路上で泡吹いている少年らしいのがいるということで、現場へ行ってみたところ、泡は止まっていたのですが、千葉市の栄町で買ったって本人が言っていて、吸引器具はない、もちろん、ハーブも全部吸っちゃったって、証拠が何にもないので、どうしようかと考えたのですが、とりあえず採尿をして、尿からいろいろと大麻とか覚せい剤とか出ればよいのですが、脱法ハーブの場合、難しく、いろいろ問題になっているのですが、いちごっこみたいなもので、ハーブについては、アロマ系のハーブとか、アロマ系というのはお香とかそんな感じになっていて、ハーブ系はちょっと葉っぱみたいのをちょっと詰めて、悪い人間は覚せい剤を入れたり、大麻を入れたりということでも聞いています。脱法ハーブについては、あまり今、法律が定まっていなくて、詳しいことは言え

ません。110 番の方も上半期で、6 月までで 264 件の 110 番が入っています。これは社会的問題になっているので、早く何とかしないとしょうがないということなのですが、そういった関係でこれ以上は話せませんが、私の管轄外なのですが、もう少し研究して、関心を持ってやっていきたいと思っています。

○片岡委員から、佐倉警察署管内少年警察ボランティア協議会の取組みについて、概ね次のような報告があった。

- ・佐倉警察署管内ということで、佐倉市と八街市、酒々井町の中から選ばれて、18 名で活動しています。基本は第 3 土曜日の夜 8 時から、その月によって、佐倉市と酒々井町と八街の公園とか、駅周辺をパトロールしています。ただ、ちょうどお祭りなどが入ると、第 3 土曜日に限らず、それに合わせて、人の多く出る時に活動しております。
- ・活動中においては、今はあまり公園とかに青少年の姿というのは見受けられません。ただ自転車の無灯火が見受けられる時がありますので、それについては、注意するようにしています。
- ・その他に、市町村各地区で、住民会議等の活動と一緒に活動しています。

○印旛健康福祉センター 金子副センター長から、子どもたちの健康面や薬物対策等の状況について、概ね次のような報告があった。

- ・印旛健康福祉センターはこの印旛郡市 9 市町を管轄しておりますので、非常に管轄地域が広いことと、管内人口も 72 万ということで、非常に多くの人口を抱えているところです。
- ・資料に出しました事業内容は昨年とほぼ同じで、新規のものというのは特にございませんけれども、簡単に説明をさせていただきます。
- ・1 点目の先ほど、薬物乱用等の話が出ていましたけれども、印旛健康福祉センターでは、予防的な活動ということで、覚せい剤等薬物乱用防止対策としまして、年に 2 回街頭キャンペーンを実施しております。今年度は 6 月に 1 回と 11 月に、京成佐倉駅前街頭キャンペーンを予定しております。
- ・それから 3 番の精神福祉相談、訪問援助ですが、定例の嘱託医を含めた相談、随時の面接、電話相談等を実施しております。青少年の対象の相談というのは、そんなに多くはありませんが、児童生徒の場合、それから保護者ということで、学校等からのご相談があった場合は、個別のケース会議等に参加をしております。
- ・それから 4 番目の思春期保健事業といたしましては、個別の学校に出向きまして、命の大切さですとか性感染症予防の講演会を実施しております。それから印旛管内の小中学校の先生方を対象としまして、学校で思春期保健事業が取り組むことができるようにということで、講演会等を開催しております。
- ・5 点目の自殺対策事業につきましては、管内の市や町、関係機関との連絡会議の開催ですとか、千葉いのちの電話の方たちと協力いたしまして遺族向けの相談会などを開催しております。
- ・6 点目の配偶者暴力相談支援センター事業としましては、定例の面接相談、随時の電

話相談を受けておりますが、これにつきましては、かなり相談件数が増えてきておりまして、連日、相談が入っているような状況です。先ほど外国人の相談が多くなっていたりという虐待の状況でも話がありましたけれど、そういったこともありますし、それから、DVの加害者につきましては、親が家庭内で暴力をしている中で育ってきて、そういう中で自分も加害者になって、暴力が原因で離婚したり、再婚しても暴力が止められないということで、子どもへの虐待も絡んでいたりというようなケースがかなり多く見られております。

- ・それから7番目のエイズ対策事業ですけれども、こちらの方も、予防啓発のための街頭キャンペーンを薬物乱用のキャンペーンと一緒に11月に京成佐倉駅前ですべて予定しています。それ以外には、エイズ相談やエイズ検査、エイズ検査につきましては、例年、保健所の方で月に1回、日中と夜間、成田支所でも、月に1回行っているところです。

○黒川委員から、民生委員児童委員協議会の取組みについて、概ね次のような報告があった。

- ・基本的に民生委員児童委員は、マンツーマンでひとりひとりに、ひとりひとりが対応していくというのが根本でして、ちょうど今年が3年に一度の一斉改選期でありまして、新しい人が増えています。ベテランもそうですが、あらためて常に研修を受けて、できるだけひとりひとりの人間力をアップしようというのが一番のテーマです。
- ・ただ、子どもたちのことにつきましては、基本的にそういう普通のおじさん、おばさんですので、町で声を掛けた時に、公園で声を掛けたり、そういう時に、我々は常に知らないおじさん、知らないおばさんという状況なので、子どもたちに、逃げられてしまいますので、できるだけ運動会とか、学校行事、卒業式とか、私の地域の方では、民生委員が5・6人おりますけど、ラジオ体操をやっています、そこに夏休みには、子ども達が300人くらい来ます。そういうところで、子どもたちから少なくとも知らないおじさんって言われないうように、そういう接触や住民活動をやっている委員もおります。
- ・高校生くらいの立場と言うと、なかなか接点が少ないのですが、ひとり親家庭の支援などで学校へ行って、中学を卒業する時に、高校に入るまで、本当に細かいことで、制服代がちょっと足りないからどうしようかという本当にちょっとした問題で高校を続けたくなくなってしまうような子もいまして、現実的に辞めてしまった子が私の関係でも何年前にいました。そんなことで、我々自身も、細かいことに気が付いて、大きく支えて行くために、民生委員ひとりひとりが成長するしかないと思うのですが、そのような活動をしています。

○兼坂委員から、社会福祉協議会の取組みについて、概ね次のような報告があった。

- ・ボランティア活動については、ボランティアセンターと各学校、地区社協、それから当事者団体等と連携し、福祉教育の推進に努めています。25年度は、市内小中8校で福祉教育関係の講座でしたり、研修等を行っています。
- ・奨学福祉事業ということで、市内の篤志家の方から寄附をいただいたものを財源とし、ひとり親家庭に属する大学生に学費の支援をしています。現在、支援を受けている学生は、9名います。今年度、来年度の申し込みを行ったところ、4名の申し込みがあ

り、現在選考委員会をしております、奨学生の選考を行っていく予定です。奨学生については、ボランティア活動ですとか、研修等を通じまして、人材の育成を合わせて、行っていくという状況です。

- ・生活困窮世帯に属する子どもへの支援ということで、経済的な理由で、生活が困難という子どもたちが、元気に育つための支援をしています。これは昨年の10月から、同じく奨学福祉事業と同じ資金を提供していただける方がいらっしゃいましたので、それを財源に行っています。先ほど民生委員協議会の会長さんがおっしゃっていたように、学校へ行くためのちょっとした費用、部活に係る費用だったり、制服代だったり、そういうところをこの資金から援助をさせていただいて、学校へ行くためのひとつのツールにしようということでやっています。
- ・最後に、ボランティア市民活動フェスタ2014を今年度も開催いたします。これは昨年度から開催をはじめたものでボランティアセンターとサポートセンターで連携して実施するものです。今年は11月23日に予定しています。たくさんのお子様も参加いただいております、子ども遊びとか、子ども横丁とかなどの体験コーナーもやっているという状況でございます。

○梅田委員から、佐倉市人権擁護委員の取組みについて、概ね次のような報告があった。

- ・活動内容としては、資料に書かれた通りですが、特に佐倉市としまして、人権相談を月3回、ミレニアムセンターで開かさせていただいておりますが、昨今の相談内容といまして、両親の離婚の問題が大変多くて、子どもさんに及ぼす影響を思いますと胸が痛む思いです。
- ・その他に人権週間に市内の小中学校に伺って、学校の方と日程を相談しながら、人権教室を何校かで開かさせていただいております。これからは、この人権教室の開催に、力を注いで行きたいと思っています。
- ・その他に、委員の中には、千葉法務局に出向きまして、子ども電話相談の相談相手になっている委員の方もございまして、身につまされる話が多いとのこと。その他に学校にSOSレターというのを置かせていただき、人には言えないような子どもの悩みを手紙で送っていただき、相談員が返事を書くという方法もとっております。

○木原委員から、社会教育委員会議の取組みについて、概ね次のような報告があった。

- ・家庭・学校・地域が一体となって、やさしい街づくりをしましょうということで、頑張っています。なお本年は、8月9日に、音楽ホールで、印旛郡の社会教育の団体の皆さんに多くお集まりいただき、思いやりのあるやさしい日本、いわゆる東北3県の復興に係る思いやりを深めましょうということで、大会を開くということでいます。時間がありましたら、ご参加をいただけたらありがたいと思っています。

○阿部委員から、佐倉市子ども会育成連盟の取組みについて、概ね次のような報告があった。

- ・子ども会育成連盟は、現在39の子ども会、2,248名の会員の皆様とともに活動し、地域の中で、様々な体験活動を通じ、子どもたちの健全育成に取り組んでいます。

- ・子ども会育成連盟では、これら地域で活動する子ども会を支援するため、子ども会の育成者を対象とした研修事業や、地域の子ども会ではなかなか行うことができない全市的な子ども会の交流事業を展開しています。
- ・具体的には、6月10日に実施した育成者講習会や10月9日に予定しております育成者クリスマス講習会は、子どもたちを支える育成者向けの講習会で工作や子どもたちにもできる手作りでのクリスマス会の演出手法などについて学んでいます。また、10月26日には、市民体育館で子ども会祭りとも言える中央交流フェスティバルを実施する予定で、現在、各公民館の皆さんと連携を図りながら、企画の検討を行っています。
- ・また、子ども会活動は、子どもの手による運営が求められているので、年間約70時間のカリキュラムで、リーダー的役割を担う子どもたちの育成を行っています。
- ・最近、中高生になってからも子ども会のお兄さんお姉さんとして、子ども会のサポートをする中高生が増えています。これからも、子どもたちの地域活動の受け皿として、子どもを核にした地域づくりを展開していきたいと思います。

○岩崎委員から、青少年相談員の取組みについて、概ね次のような報告があった。

- ・佐倉市青少年相談員は現在18期目となり、任期は平成25年4月1日から平成28年3月31日までの3年間となっています。各地区の小中学校区を単位に、2名から3名の青少年相談員で構成され今期の相談員は全員で71名となっており、子どもたちとの交流を図ることで、地域での青少年の健全育成に努めています。
- ・全市的な行事としては、ソフトドッジボール交流大会、凧揚げ大会、綱引き大会を実施しています。最近の行事としては、6月29日にドッジボール大会を開催しました。例年、30チーム前後の参加となりますが、今回は48チームの参加があり、子ども達431名、引率者・保護者を含めると750名もが集まる事業となりました。昨年岩名陸上競技場が施設改修となっていましたので、代わりに1月19日に、中央公民館で、けん玉やベーゴマなどの遊びを取り扱った「こども昔あそびまつり」を実施いたしました。315名の参加があり、とても盛況でした。
- ・これらの活動を通し、保護者の誘導もあるかと思いますが、子どもたちが、いろいろな行事に関心を示して、意欲を持って参加しているのではないかと感じています。活動に参加している子どもたちの表情を見ましても、生き生きと楽しく参加しているので、活動をしていて良かったと感じるところです。これからも、地域の子どものために、各地区活動をはじめ、様々な取組みを行っていきたくと思っています。

○菅田委員から、青少年育成市民会議の取組みについて、概ね次のような報告があった。

- ・ひとつお願いしたいのは、市民会議に教育委員会が入っていない。これはぜひ入れてもらいたい。また何かの機会にそういった時間が欲しいと思っています。なぜかというところ、ここに「私の思い中学生の主張大会」というのがある。これ恐らく中学校の方に県民会議の方から依頼が来るんじゃないか。しかし、体育関係、音楽関係には力を入れているんですが、こういう地味なものには、恐らく教育委員会、どういう態度を取っているのかというのがちっともわからない。来るとバスで応援に来るんですね。

だから全然違うんですね。そういうことで教育委員会となんだかの連携がとりたいなと思っています。

- ・もう一つ、先ほど子育て支援課の方で、臼井のレイクピアでもってやっていますよね、延べ人員が書いてあります。これどういう人が来ているか具体的なことが書かれてないんですね。地区の人なのかどうか。そこへ行きますと、畑の学校は、36世帯の137名、これは固定的な人数でございますが、いっぺん来てみれば、どういうことをやっているか、一目瞭然です。したがって、レイクピアの御座敷でやっているような子育てじゃなくて、現地でやっている子どもはひとつの子育てですから、ぜひ来ていただいて、何も全部来てくださいますよということはいいません。半年間、月に2回ですけれど、そのうち1回か2回来てくれれば、ここにありますように、いろいろな情報提供もできます。そうしたことをお願いして終わります。

○高石委員から、佐倉市体育協会の取組について、概ね次のような報告があった。

- ・体育協会と青少年健全育成の関係については、各競技団体に入っている子どもたちは、多くの子どもたちとスポーツを通じた交流や親や指導者の目もあり良いのですが、入っていない子どもたちが心配というところがございます。
- ・岩名運動公園の中に、岩名球技場を作っていただき、ありがとうございます。今年は、サッカーのワールドカップが開催されていますが、この球場は、サッカーには使えるのですが、ラグビーグラウンドとしての幅がないので、幅をもう少し広げてもらったら良かったのかなと思います。加えてもう一つは、あそこにベンチがないのも心配です。そこら辺を改善していただければ助かるなと思っています。

○遠藤委員から、スポーツ推進委員の取組について、概ね次のような報告があった。

- ・今年の活動計画として、先日6月21日にニューススポーツまつりというのを市民体育館で行いました。これはニューススポーツ、今まで知られていなかった新しい誰でもできるスポーツ、ユニカールですとか、バウンドテニスですとか、ソフトバレーボール等、誰でもできるスポーツを、お年寄りから子どもまで、皆さんに楽しんでいただくことを目的に行いました。結構来ていただいて、大盛況に終わりました。
- ・10月13日に、岩名競技場の方でさくらスポーツフェスティバルというのを行います。こちらは、まだ競技は会議を行っていないので、決定はしていないのですが、だいたいグラウンドゴルフですとか、ヨガですとか、こちらもたいてい皆さんがお年寄りから子どもまでやりやすいスポーツを中心に行っていく予定です。小さいお子さんについては、ゲームコーナーなども設けて、楽しんでいただけるように行いたいと思います。
- ・あと11月30日にインディアカ大会を行う予定であります。こちらは市民の方にインディアカチームを組んでいただいて、出ていただくというような形になっています。
- ・3月29日は、朝日健康マラソン大会ということでこちらはボランティアとして参加させていただきたいと思っております。
- ・あとは、下に書いてある事業計画は、推進委員がスキルを挙げるために研修会などに参加させていただいております。

続いて、子どもたちや子どもたちを取り巻く環境で気になることとして、民生委員児童委員協議会の黒川委員、千葉敬愛短期大学の新田委員、社会福祉協議会の兼坂委員から、ひとり親世帯への支援等（資料 31 ページ）について、事前に意見が寄せられた。代表して、生活困窮者自立促進支援モデル事業に取り組んでいる兼坂委員から、次のような状況説明があった。

- ・現在、佐倉市社会福祉協議会では、生活困窮者自立促進支援モデル事業に取り組んでいます。これは、昨年 12 月に生活困窮者自立支援法が制定されまして、来年 27 年の 4 月から全国一斉に施行されるというもので、それに先駆けて、佐倉市で、昨年 10 月からこのモデル事業に取り組んでいます。取り組んでいる中で相談を受けている状況を少しご紹介したいと思います。
- ・5 月の相談件数は 124 件ありました。その内、37%、46 件の相談をしていただいた家庭に児童がいらっしゃるという状況です。この 46 件の内訳としては、ふたり親の家庭が 16 件、ひとり親の家庭が 14 件、その他が 16 件という状況です。こういった子どもが、児童がいらっしゃる家庭の貧困という問題が非常にクローズアップされているということです。
- ・先ほども申し上げましたが、学校へ行くためのちょっとした費用が足りないというところでは、元気に育つ子ども基金からお金をねん出したりとか、それから、奨学生ということで、学費を支給したりとか、また、善意銀行とか生活福祉資金の中で、就学費用をお貸ししたりというような対応をしています。
- ・それに加え、お金だけの問題ではなくて、伴走型の支援として、家計相談等を実施しています。
- ・また、貧困の連鎖を断ち切るための学習支援ということで、学校ですとか、大学生の皆さんと連携をしながら、世帯に属する子どもたちの学習支援をしていけたらよいのかと考えています。

それに対し、事務局の櫻井児童青少年課長から、行政が行うひとり親支援について次のような説明があった。

- ・主にひとり親家庭を支援するための経済的な支援については、まず、離婚等の理由でひとり親家庭になった児童の父、又は母などに、生活の安定と支援を目的に支給される児童扶養手当というものがあります。対象期間は原則として、対象児童が 18 歳に達した以降の最初の 3 月 31 日までとなっています。所得基準を上回っている場合や、公的年金を受けている場合など、受け取れないケースや一部支給となるケースもありますが全額受け取れる場合で、児童一人の時の月額支給額は 41,020 円となっています。
- ・また、ひとり親家庭等医療費の助成制度は、児童と児童を養育しているひとり親家庭を対象とした医療費の助成制度です。ひと月同一の医療機関に支払った保険診療費の内、自己負担額が 1,000 円を超えたものを助成対象としています。対象期間は、児童扶養手当と同じく 18 歳に達した日以降の最初の 3 月 31 日までとなっています。佐倉市は、子ども医療費の助成を義務教育終了まで行っていますが、ひとり親家庭等の場

合は、概ね高校終了時まで、医療費の助成を受けられることとなります。

- ・このほか、ひとり親家庭の父又は母の就労を支援するためのひとり親家庭自立支援教育訓練給付金等の制度、貸付等の制度もございまして、ひとり親家庭の父又は母の資格取得を応援し、就労や自立の支援に努めているところです。

次に、佐倉東高校の小林教頭から登下校中の不審者対応についての事前意見が寄せられていたので、その点について確認すると、小林教頭から次のような説明があった。

- ・今年度の4月、午後4時半くらいの平日に、市民の方から不審者がいたとのことで、佐倉署に連絡をした後に本校に連絡があった。本校はちょうど、全日制の生徒が下校するタイミングであり、かつ同時に、定時制の生徒がちょうど登校する時間帯でもありましたので、非常に助かりました。本校職員を数名現場に急行させました。痴漢ではないようでしたが、露出狂のような男性がいたということで、情報をいただきました。去年までいた千葉市内でも、情報を各学校で共有しておりまして、何かあると各学校へファクスが来ておりましたが、地域の方から情報を得られるのは、非常に助かることだと思いました。定時制の場合は、平日は夜9時に授業が終わります。部活動をやっている生徒は、更に1時間部活動をやって夜10時過ぎに学校を出るのですが、東高はご存じのとおり城址公園の隣ですので、JRあるいは京成佐倉へ向かって歩く道が、ちょっと心配な部分もあります。地元の方からの情報提供があるとすごく助かります。それからJRあるいは京成に乗って、各生徒の地元、だいたい、佐倉、八街、酒々井、成田から来る生徒が多いのですが、地元で駅を降りてから、痴漢の被害に遭った生徒がおりました。これは市外から来ている生徒でしたが、警察にすぐに届け出て、しばらく保護者の方に駅まで送り迎えをしてもらいました。

この話を受けて、少年警察ボランティアの青少年パトロールや警察の巡回をお願いすることとなった。

次に、資料 32 ページ、上志津中学校の山口委員、佐倉東高校の小林教頭から、スマートフォンについての懸念が示されており、山口委員から、このことについて次のような説明があった。

- ・先ほども説明いたしましたが、学年が上がるにしたがって、スマホの保有率が高くなっています。3年生あたりだと、6割が携帯またはスマホを持っている状況です、特に女子の方の割合が高く、ここにも書いてあるように子どもたち向け、保護者向けの講習会というか、安全教室をやるのですが、なかなか来てもらえないのが保護者の方です。危険だというのはわかっているのですが、なかなかそれが浸透していないということで、ここに書きましたように、自治体で規制を設けているところがあります。9時以降はスマホを使わせないなど。それで成果が上がっているというのが、この間テレビでもやっていましたし、いろいろなマスコミでも取り上げているのですが、市としては、そこまで考えていないのかどうか、なかなか保護者と話をしましても、そこまでいかないのです。保護者はなかなか危険性を感じてくれない。小学校中学校も全く同じ状況だと思います。高校もそれに近いところがあると思いますが、いかがで

しょうか。

それに対し、事務局の牛玖青少年育成班長から、次のような説明があった。

- ・ご指摘のとおり、子どもたちのスマートフォン化が進んでおり、中でも女子の保有率の方が高いという現状が国の調査にも表れており、小学生の約3割、中学生の約5割、高校生においては100%に近い割合で、携帯電話を所持しています。また、携帯電話を所持している子ども達のうち、スマートフォンの占める割合は、小学生で1割台後半、中学生で約5割、高校生では8割台後半となっており、今後、携帯電話のスマートフォン化はますます進むものと想像できます。
- ・利用実態としては、電話というよりも、メール、チャット等のコミュニケーションツールとしての使い方が多く、1日の平均利用時間は107分という結果になっています。
- ・規制の例としては、行政が条例で定めている例、教育委員会や学校、PTA等が呼びかけを行っている例が見受けられますが、主にPTAや学校単位での取組みが見られます。
- ・行政が条例で定めている例としては、石川県の青少年健全育成条例である「いしかわ子ども総合条例」の中で、「保護者は、特に小学校、中学校、中等教育学校及び特別支援学校に在学する者には、防災、防犯その他特別な目的のためにする場合を除き、携帯電話端末等を持たせないよう努めるものとする。」との保護者に対する、努力義務規定を設けている例があります。
- ・石川県野々市市では行政ではなく、野々市市の“ののいちっ子を育てる”市民会議がかなり以前から小中学生とその保護者に小中学生は携帯電話を持たないよう呼びかけてきた経緯があり、所持率はかなり低いとされています。ただ、持たせる持たせないという取組みについては、情報通信技術に対する能力という側面など様々な意見があり、最近では、持たせないという規制ではなく、利用時間の規制を行う例が見られるようになってきました。
- ・青少年インターネット環境整備法においても、フィルタリング等の承諾は、買い与える保護者の責任という前提があるので、PTAなどを中心に、利用実態の調査等を進め、必要に応じて当事者であるPTA等が、規制を呼び掛けるという傾向があり、また、生徒会で自ら検討し、呼びかけている事例も見受けられます。
- ・PTAなどを中心に規制が必要だという機運の醸成があれば、検討も必要になってくるかもしれませんが、現段階では、フィルタリングの設定、家庭でのルール作り、個人情報や載せない、知らない人からのメールに返信しないなどの使い方の徹底を図るといった活動を皆さんと共に進めていくことが大切と考えています。

最後に、次第 会議2、各団体間の連携については、資料1の33ページにあるように、千葉敬愛短期大学の新田委員から、地域の社会資源として、大学の機能、教員・生徒を活用してもらいたい旨の申し出があり、それに対して、子どもの居場所づくりや学習支援に取り組みたいと考えていた社会福祉協議会と方向性が一致し、今後、連携・協力を推進することとなった。

	<p>以上で会議は終了し、茅野教育長から、複雑な社会の動向により、様々な困難を抱える家庭が見られるようになったが、家庭を一步出れば、学校も地域も子どもにとっては、明るい希望が持てるような平等な社会であるということを大人が伝えることが子どもたちにとって大きな励みになる、と総括的な挨拶があり、山辺健康こども部長の閉式の言葉で、すべての内容が滞りなく終了した。</p>
--	--